



様変わりのコースが味方し、現車両の過去最高位 1 2 位完走

予選 13位 /28 台中 1'40.454 (TOP +1.256) ▶ 6月14日 (土) 14:10 開始

T2 FACTORYは2019年の開設時より「TOYOTA GAZOO Racing GR86/BRZ Cup」に継続参戦しており、社員で専属チーフエンジニアの大橋孝行が組み上げた #56号車「栃木トヨタT2FACTORY BS GR86」に、社員ドライバーの鶴賀義幸が搭乗しています。また、毎戦ごとに各店舗からエンジニア2人がメカニックとして帯同し、レースを通じて技術を磨いています。

6月14日～15日に、シリーズ第3戦が「スポーツランドSUGO」(以下、「SUGO」)で開催されました。前戦のもてぎでは前代未聞の波乱から6番手スタートとなりましたが、決勝レースで踏ん張り切れず17位へ後退しました。昨年に比べ車両の感触は良い方向へ進歩しているため、上位陣と対等に戦うための残る伸びしろを見つけるには、毎回の走行を丁寧に重ねることが肝要です。そして今大会は、2022シーズンからおよそ3年間使用した現車体のラストランとなる予定でしたので、最後を飾るべく士気を高めて臨みました。

今年の初めに全面改修が行われたSUGOは、昨年と路面状態が大きく異なり大幅にグリップが向上していました。しかし今大会は練習走行時間が少なく、限られた時間内でいかに効率よくコースを習熟し、タイムを縮められるかが問われました。12日(木)は3本の走行がありましたが、車両はもてぎで良かった部分はそのままに旋回性能を上げた状態で持ち込むことができていたため、わずかな調整にとどめ、残る走行はタイヤと運転の習熟に集中しペースを上げていきました。

初日からドライ路面での走行が続き、汗ばむ気候のなかでタイヤの摩耗に悩まされるチームも多くありました。13日(金)は専有走行の1本のみ走行で、ドライ路面でしたが、土・日曜日には雨も予想されていたため、正確な戦況把握はできないまま本番を迎えました。

14日(土)は予報通り朝から雨が降り、どのチームも練習できていないウェットコンディションでの予選となりました。当チームは直前に行われていたクラブマンシリーズの状況から、予想されるタイヤ内圧を割り出し、良い条件で走行ができました。順調にベストタイムを更新し一時は上位につけましたが、路面のグリップ改善は予選セッションの最後まで続き、タイムが周回毎に大きく更新されました。コースアウトも多発する難しいコンディションで、当チームは決勝レースを完走するため、車両を温存し大事をとりピットへ戻りました。ほぼ全車がタイム計測を最後まで続け、予選セッションの残り5分間で1秒以上タイムが更新されました。結果は13位となり、決勝レースは7列目外側からのスタートとなりました。



決勝レースは、前日に降った雨が開始時間までに乾き、気温と湿度で息苦しささえ感じる暑さの中、ドライ路面で開始されました。最も日差しの強まる午後13周で競われた決勝レースは、レースファンから「魔物が住む」といわれるSUGOらしい、混乱のサバイバルレースとなりました。予定通りの14時にスタートしたレースは、1周目の最終コーナーでは既にトップ4台と5位以下の集団が大きく差をつけられる状態となり、中団は狭いコース幅と距離のなかで10台近くが混戦となりました。方々で軽い接触が発生し、コースアウトする何台かの車両を尻目に、抜きつ抜かれつ順位が上下しました。徐々に中団から離されていきましたが後続車は遠く離れ、当チームは前にいる車両を攻略するのみでした。なかなか仕掛けることができず周回が過ぎ、最終ラップの第4コーナーで前の車両に追い抜きを仕掛けるも、わずかに届かず抜くにはいたりませんでした。週末を通していくつかのライバルチームには、タイヤの異常摩耗が発生しラップタイムを落とす傾向があったことから、レースを半分消化する頃には複数台がリタイヤし、順位が大きく入れ替わっていました。粘り強く走行しチャンスを窺い、最終的にスタートから順位を1つ上げて12位でフィニッシュラインを通過しました。ライバルの失速やコースアウトに助けられたとはいえ、今までこの車両で経験したなかでは最も洗練されたレース運びができました。

今回のレースには、初参加のエンジニア2名が参加しました。車が好きで、個人でも86の所有歴があるおふたりでしたが、レースとなると勝手が違い、緊張しながらの作業に見えました。当初はあまり活動や現場のイメージができず、戸惑いながら指示に従う様子ではありましたが、ミスなくメンテナンス作業を行っていました。現場に慣れてくると、エンジニアから「もっと知りたい気持ちが湧いてきた」と言葉も出て、活動に興味を持ってもらえたようで何よりでした。SUGOの特徴である中高速コーナーや、予選日の雨に濡れた路面はかなり危険を伴いますが、メンテナンスの甲斐あって、全力でレースを戦うことができました。

現在使用している車両は、レースがZN6型からZN8型に移行した2022年からの3年間使用した思い出深い車両です。KILALA美術学院とのコラボレーションデザインは、多くの方からお褒めの言葉をいただき、またレース中にはその鮮やかさから視認性も高く、好評をいただきました。当チームにとって次戦となる9月の富士スピードウェイでは、同じくKILALA美術学院とのコラボレーションによる新規デザインを纏ったニューマシンが登場する予定です。気を引き締めて、準備を進めてまいります。

皆さまのあたたかいご声援をいただき、今大会も走りることができました。今後とも、何卒応援いただきますようお願い申し上げます。

ドライバー鶴賀のコメント

SUGOは好きなサーキットのひとつですが、改修によって大きく様相が異なる今大会では様々な要因によって状況判断力と思考力を試されました。100点満点とはいかないものの、都度の判断には間違いがないと思える、充実したレースでした。周囲のチームが異次元の速度で進化する中、この現車両でのベストリザルトを持ち帰れたのは、ここまで活動を続けさせていただいていることと、良いマシンを作ってくださったチームの皆さんのお陰です。遠く離れた地であるにも関わらず、地元もてぎで応援に来て下さったお客様が今大会にも駆けつけてくださいました。そのほか、多くのご支援・ご声援をいただいたお陰です。誠にありがとうございました。今後とも、ぜひご注目いただけますと幸いです。

